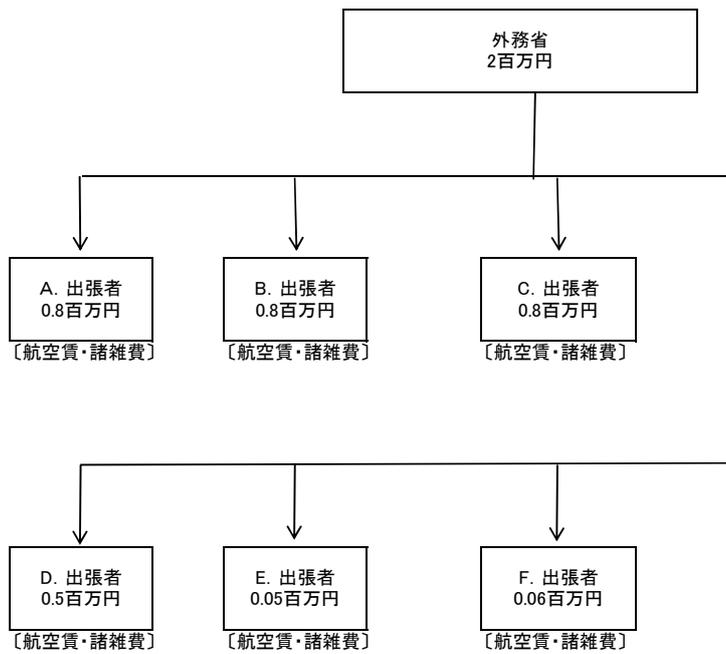


平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	ミンダナオ和平構築関連業務		担当部局	南部アジア部		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成20年度開始		担当課室	南東アジア第二課		課長 山本 敏生		
会計区分	一般会計		施策名	I-1 アジア大洋州地域外交				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条二・三、外務省組織令第44条		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国は、従来からミンダナオ和平プロセス支援を重視しており、今後も復興・開発支援を更に推進するとともに、和平交渉そのものの進展に向けた政治的な働きかけを強化し、平和協力外交を展開することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	ミンダナオ島コタバト市の国際監視団(IMT)に派遣されている我が国専門家2名(在フィリピン大使館一等書記官及び二等書記官)の年間各12回の出張。ミンダナオ・タスクフォースのメンバーでもある在フィリピン大政務班員による年間3回のミンダナオ出張。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
		当初予算	2	4	3	3	3	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
	計	2	4	3	3	3		
	執行額	2	4	2				
執行率(%)	100.2	97.3	66.2					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)	
	ミンダナオ和平の実現が比国のみならず、地域の安定と繁栄にとり肝要であるとの認識に基づき、我が国は国際監視団(IMT)への復興開発専門家の派遣、元紛争地域への集中的な経済支援(J-BIRD)及び国際コンタクト・グループ(ICG)への参加などを進めており、我が国の平和構築外交の試金石と目されるものである。このような平和構築外交を支えるためにも、我が国政府関係者が頻繁にミンダナオに出張することが重要。		成果実績	「ミンダナオ和平への貢献度: +1」 平成20年8月に和平交渉は合意寸前まで到達ものの、その後、停戦が崩壊し、治安情勢は悪化。かかる状況下でも、在比大館員は出張を実施し、地域の社会開発事業に協力。	「ミンダナオ和平への貢献度: +2」 平成21年度はIMTも撤退し、危険かつ劣悪な勤務環境を強いられたものの、在比大館員が地道な活動を続けたことが、平成21年7月の停戦合意に結びついた。我が国外交の成功例と位置づける得る。	「ミンダナオ和平への貢献度: +1」 前年の訂正合意を受け、IMTが活動を再開し、治安も安定してきた。ただし、比の政権交代もあり、一時交渉会議が中断したことから、館員の出張実績は減少。	「ミンダナオ和平への貢献度: +2」	
				達成度	%	80%	90%	70%
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
	ミンダナオ島コタバト市の国際監視団(IMT)に派遣されている我が国専門家2名(在フィリピン大使館一等書記官及び二等書記官)の年間各12回の出張。ミンダナオ・タスクフォースのメンバーでもある在フィリピン大政務班員による年間3回のミンダナオ出張。		活動実績 (当初見込み)	年間16回出張	年間37回出張	年間17回出張	-	
単位当たりコスト		133,695(円/1回)	算出根拠	2,272,826円 ÷ 17回(6名)				
平成23年度予算 (単位:千円)	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	出張旅費	3,359	3,319					
	計	3,359	3,319					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	●ミンダナオ和平の達成は、フィリピンのみならず、地域の経済成長及び地域安全保障に重要な役割を果たすものであり、我が国政府も重視している。紛争地域への人員派遣であり、国が実施することが適当。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	●我が国のミンダナオ和平支援に関する情報収集、バックチャネルでの働きかけ、経済協力案件の実施など、真に必要な出張に限っており、支出は妥当かつ合理的なものである。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	●和平交渉支援、紛争影響地域への復興開発支援は着実に効果を挙げており、例えば、ミンダナオ紛争影響地域における経済協力(J-BIRDと総称)は2006年以降、2011年6月までで、累積119億円に上っており、地元から高く評価している。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	ミンダナオ和平支援を推進するために、今後も在フィリピン大使館館員の出張回数を維持することに努める		
	i		
一部改善	単価の見直しによる減		
	上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)		
縮減(単価の見直しによる減)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて補
足する)(単位:百万円)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者		0.8	—	—
2					

支出先上位10者リスト

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者		0.8	—	—
2					

支出先上位10者リスト

C

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者		0.8	—	—
2					

支出先上位10者リスト

D

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者		0.5	—	—
2					

支出先上位10者リスト

E

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者		0.05	—	—
2					

支出先上位10者リスト

F

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者		0.06	—	—
2					